

1 題材名 学級レクリエーションをしよう【内容(1)】 指導の時期 6月

2 題材について

5年生は、学級でイベントやレクリエーションを企画し、学級活動の時間に実施するということをこれまでによく行ってきた。5年生の4・5月は、学級編成をしたこともあり、新しい学級生活に対して期待や意欲に満ちている。そのような時期に、学年の各学級それぞれの間関係をさらに深めて学級を一致団結させ、楽しく協力して過ごせるようにこの題材を設定した。学級の計画委員で計画し、話し合い活動で学級の意見をまとめさせたい。話し合いにあたっては、1つの種目や競技を実施するために意見を集約する場合もあれば、いくつかの種目や競技を実施する場合もあるということが考えられる。話し合いに折り合いをつけながら、学級が1つにまとまるような活動となるよう期待する。

3 題材の目標

- 学級の一致団結と協力の精神が大切であることに気づき、計画委員が中心となって学級全員で楽しめるレクリエーションの計画を考えようとする。(関・意・態)
- 学級全員で楽しめるレクリエーションの計画のために、様々なアイデアや会の進め方の工夫などについて提案し、実行することができる。(思・判・実)
- 学級生活の充実のためには、みんなで一致団結したり、一人一人が協力したりすることが大切であることが分かる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 話し合い活動では、自分の意見に固執せず、全員が楽しめる活動は何かということを考えながら参加し、どのような活動内容がよいか判断する。(判断力)
- ◆ 友達と協力し、学級で一致団結することの大切さを確認することで、友情・信頼の心を育む。(2-(3) 友情・信頼、助け合い)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ レクリエーションで実施したい種目や競技について考えて記入しておく。 (休み時間・学級会ノート)	○ ルールが複雑な活動とそうでない活動、体を動かす活動とそうでない活動など、様々な視点から考えて全員が参加しやすい内容を考えるよう助言する。

(2) 本時の活動(第1時)

① 活動テーマ例 「学級レクリエーションをしよう」

② 活動のねらい 学級生活がより楽しくなるような活動計画を立てよう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 計画委員(司会グループの)を中心に、議題の確認や提案理由について発表する。	○ いつ実施するのか、何時間目に実施するのか等、児童が考えやすいように概要を説明する。 ○ 話し合い活動の目的や本時のめあてを再確認させ、話し合いの助言者として、方向性を示す。
展開	2 実施したい種目や競技について意見を出し合う。 3 出てきた意見をもとに、比べ合う。 4 比べ合ったことをもとに、意見をまとめる。	○ 考えてきた意見やノートに書いてきたものを発表できていない児童がいれば、発表するよう促す。 ○ 論点がずれたり、話題がそれたりした場合は、今、何を話し合っているか確認させる。 ◇ 学級生活がより楽しくなるような活動を考え、話し合い活動に参加することができたか。
終末	5 本時の活動をふり返り、教師の話聞く。	◇ 話し合いのめあてを達成することができたか。

(3) 事後の活動(第2時に向けた事前の活動)

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 話し合い活動で決まったことをもとに、計画委員は実施計画の詳細を決定し、報告する。 (休み時間・ふれあいタイム)	○ 実施する際の時間と場所の確保をするとともに、競技や種目のルールなどの詳細について学級内で事前に共通理解できるよう配慮する。

(4) 本時の活動(第2時)

① 活動テーマ例 「学級レクリエーションをしよう」

② 活動のねらい 学級生活がより楽しくなるような活動をしよう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 計画委員(司会グループの)が、活動の内容やルールについて説明する。	○ いつ実施するのか、何時間目に実施するのか等、児童が考えやすいように概要を説明する。 ○ 話し合い活動の目的や本時のめあてを再確認させ、話し合いの助言者として、方向性を示す。
展開	2 レクリエーションを実施する。 (活動例) ・ドッジボール ・けいどろ ・バスケットボール	○ 勝敗に関わらず、活動の工夫が見られた児童を取り上げ、称賛する。 ○ 審判が必要なときには児童が公正公平に取り組んでいるか確認し、運営面で活躍している計画委員に対して称賛や励ましの言葉をかける。 ◇ 学級の友達と楽しんで活動したり、計画委員が計画にもとづいて協力して運営したりしているか。
終末	5 本時の活動をふり返り、教師の話を聞く。	○ 話し合いから活動まで、自分たちで運営することができたことを称賛する。

(5) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・レクリエーションを通して学んだことを、学級生活に活かす。 (常時活動)	○ 学級全体で協力して楽しむことができた姿を称賛し、今後の学校行事などでも、今回と同様に協力して計画、実施していくことが大切であることを伝える。

1 題材名 運動会のスローガンを決めよう【内容(1)】 指導の時期 6月

2 題材について

運動会は、全校生にとって特別な行事である。また、学校全体としても、教科体育の充実、学級の結束を強める機会として重要である。1年生は小学校生活最初の運動会であるため、戸惑いや不安もあるが、皆運動会に向けてがんばっていきこうという気持ちでいっぱいである。練習がつかつたり、途中でくじけそうになってしまったりすることもあるが、運動会のスローガンを考えたり話し合ったりする活動を通して、一人一人が運動会に向けての希望や目標を持って練習に取り組み、充実感に満ちた運動会にしたい。そのために、全学年を通して運動会のスローガンについて話し合い活動を行う。

3 題材の目標

- 自分たちが参加する運動会の内容やスローガンについて関心を持ち、進んで話し合い活動に参加しようとする。(関・意・態)
- 自分たちが参加する運動会の内容やスローガンについて、友達と話し合い、自分の考えを発表することができる。(思・判・実)
- 自分の考えと友達の考えには共通点があることを知り、みんなで協力することで運動会の目標が達成できるということが分かる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 自分の考えと友達の考えには共通点があることに気づき、自分の考えも友達の考えも大切であるということが分かる。(感受性)
- ◆ 目標を持って運動会に参加することの大切さを知らせ、友達と励まし合いながら粘り強く練習に取り組む態度を育成する。(2-(3) 友情・信頼、助け合い)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 荒川小の運動会について教師の説明を聞く。(朝の会・帰りの会) ・ 家庭で運動会のスローガンを考えてくる。(家庭・学級会ノート) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 荒川小の運動会について、写真などを用いて説明する。 ○ 「スローガン」とは何かを説明し、いくつか例示する。また、保護者と一緒に考えることを伝える。

(2) 本時の活動

① 活動テーマ例 「運動会のスローガンを決めよう」

② 活動のねらい みんなの思いが1つになるようなスローガンを話し合おう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 司会の教師を中心に議題の確認や話し合い活動のねらいについて話を聞く。	○ 「スローガン」とは何かを再度説明し、児童が考えやすいようにする。 ○ 話し合い活動の目的や本時のめあてを確認させ、話し合いの司会者として、方向性を示す。
展開	2 考えてきたスローガンについて意見を出し合う。 3 出てきた意見をもとに、比べ合う。 4 比べ合ったことをもとに、意見をまとめる。	○ 考えてきた意見やノートに書いてきたものを発表できていない児童がいれば、発表するよう促す。 ○ 論点がずれないように、今、何を話し合っているかを確認させながら話し合いを進める。 ◇ 運動会のスローガンを考え、話し合い活動に参加することができたか。
終末	5 本時の活動をふり返り、教師の話を聞く。	◇ 話し合いのめあてを達成することができたか。 ※ 学級で決まったスローガンは、代表委員会に提出し、運動会のスローガン候補として扱う。

(3) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 全校練習や学年練習の場面でスローガンを思い出し練習に積極的に取り組む。(運動会の練習) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動会の練習時に、児童の活動のよさを見つけ、称賛していく。 ◇ 友達と励まし合い声をかけ合いながら練習に取り組んでいるか。

1 題材名 大そうじ【内容(1)】

指導の時期 1 1 月

2 題材について

年末は大そうじの時期である。児童にとっても、大そうじは家族行事として行われることも多く、なじみ深いものである。大そうじを行い、感謝の心を育てたい。

5年生は、清掃活動において清掃強調週間を学期ごとに経験しており、定期的の大そうじをすることの意義について理解している。また、高学年になったことにより、学級だけでなく学校全体を見て行動する立場となった。これまでの清掃活動の経験から、大そうじの大切さを確認し、普段行き届かない箇所の清掃や、自作の清掃用具を使つての清掃を行うことで、意欲的に活動に参加できるようにする。話合いにあたっては、1つの活動を実施するために意見を集約する場合もあれば、いくつかの活動を実施する場合もあることが考えられる。話合いに折り合いをつけさせながら、感謝の心を育てる活動となるよう配慮する。

3 題材の目標

- 大そうじの仕方について進んで話合い活動に参加するとともに、大そうじを行うことで、校舎に「ありがとう」の気持ちを伝えようとしている。(関・意・態)
- ピカピカ計画のために、様々なアイデアや清掃の仕方の工夫などについて意見を发表することができる。(思・判・実)
- 「ありがとう」の気持ちを行動や態度で表すことの大切さが分かる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

◎ 話合い活動では、友達の意見に耳を傾け、学級をきれいにするためのよい意見には積極的に賛成し、行動しようとする。(実践力)

◆ 友達と協力して大そうじを行うことで、感謝の心を育てる。

(4-(4) 勤労、社会奉仕、公共心)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 大そうじで清掃したい場所について考えて記入しておく。 (休み時間等・学級会ノート)	○ 縦割り班清掃では行き届かない箇所の清掃や、普段使うことの少ない清掃用具を使つての清掃を行つてもよいことを伝える。

(2) 本時の活動(第1時)

① 活動テーマ例 「5年〇組ピカピカ計画！」

② 活動のねらい 校舎に「ありがとう」の気持ちを伝えるにはどのような活動をしたらよいか話し合おう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 司会グループの児童を中心に議題の確認や話合い活動のねらいについて話を聞く。	○ 教室に「ありがとう」の気持ちを伝えるためにはどのように清掃を行えばよいか、児童に考えさせる問いかけをする。 ○ 話合い活動の目的や本時のめあてを確認させ、話合いの助言者として、方向性を示す。
展開	2 考えてきた大そうじの計画について意見を出し合う。 3 出てきた意見をもとに、比べ合う。 4 比べ合ったことをもとに、意見をまとめる。	○ 考えてきた意見やノートに書いてきたものを発表できていない児童がいれば、発表するよう促す。 ○ 教室以外の場所(廊下、水道、昇降口等)にも着目させる。 ○ 論点がずれないように、今、何を話し合っているかを確認させながら話合いを進める。 ◇ 教室に「ありがとう」の気持ちを伝える大そうじの方法について、話合い活動に参加することができたか。
終末	5 本時の活動をふり返り、教師の話を聞く。	◇ 話合いのめあてを達成することができたか。 ※ 大そうじに必要な道具(爪楊枝、綿棒等)は教師が用意する。

(3) 事後の活動(第2時に向けた事前の活動)

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 話合い活動で決まったことをもとに、清掃分担の希望を考える。 (休み時間・ふれあいタイム)	○ 実施する際の時間の確保をするとともに、活動内容の詳細について学級内で決め、説明する。 ○ 清掃の分担について、内容と人数の割り振りを行う。

(4) 本時の活動(第2時)

① 活動テーマ例 「5年〇組ピカピカ計画！」

② 活動のねらい 校舎に「ありがとう」の気持ちを伝える大そうじをしよう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 教師の説明を聞く。	○ 活動の目的や本時のめあてを再確認させ、清掃の仕方や注意事項、時間等を説明する。
展開	2 大そうじを実施する。 (活動例) ・教室の床の水拭き ・棚の水拭き ・床のほこり取り ・窓ふき	○ 活動の工夫が見られた児童を取り上げ、称賛する。 ◇ 友達と協力して活動したり、工夫して取り組んでいるか。
終末	3 本時の活動をふり返り、教師の話を聞く。	○ 教室に感謝の気持ちをもって話合いや活動ができたことを称賛する。

(5) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 大そうじを通して学んだことを、学級生活に活かす。 (常時活動)	○ 学級全体で協力して取り組むことができた姿を称賛し、次回も今回と同様に協力して計画、実施していくことが大切であることを伝える。

1 題材名 6年生を送る会【内容(1)】

指導の時期 12月

2 題材について

5年生は、委員会活動、クラブ活動、縦割り班清掃、運動会練習、共遊の時間、登下校など、同じ高学年として様々な場面で6年生とともに活動し、6年生の活躍する姿を見てきた。この時期は、4月から最高学年になるという自覚と、自分たちで大丈夫だろうかという不安が入り交じり、今まで6年生が果たしてきた役割の大きさを感じるようになる。

5年生が、卒業を控えた6年生に対してできることは大きく2つである。1つは、これまでの感謝の気持ちを表すこと、そしてもう1つは、6年生が担ってきた役割を自分たちが引き継ぎ、よき伝統として残していこうとする姿を6年生に見せることである。

それらを実現するため、「6年生を送る会」についての話し合い活動を行う。話し合いで決まったことは、代表委員会に提案され、会の進行によっては、「6年生を送る会」で実際に行われることになる。

学級として1つの意見に集約する話し合い活動になることが考えられる。話し合いに折り合いをつけさせながら、また、会全体の進行のことを考えさせながら話し合わせることで、よりよい活動となるよう配慮する。

3 題材の目標

- 6年生を送る会について進んで話し合い活動に参加するとともに、6年生に感謝の気持ちを伝え、また6年生が担ってきた役割を自分たちが引き継ぎ、よき伝統として残していこうとする姿を6年生に見せるための具体的な方法を考えようとしている。

(関・意・態)

- 6年生を送る会のために、様々なアイデアや活動の工夫について、6年生に感謝の気持ちを伝え、また6年生が担ってきた役割を自分たちが引き継ぎ、よき伝統として残していこうとする姿を6年生に見せるためにはどのような活動をしたらよいか考え意見を発表することができる。

(思・判・実)

- 6年生に対する感謝の気持ちを、具体的な行動に起こすことによって示すことの大切さと、参加者全員が楽しめるような内容を考えることの大切さが分かる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 自分たちの思いを伝えられるような活動を考え、発表することができる。(技能)

- ◆ 今までお世話になった6年生との思い出作りをする活動を通して、感謝の心を育てる。(2-(5) 尊敬・感謝)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 6年生を送る会について教師の話を聞く。 (朝の会・帰りの会)	○ 6年生を送る会について説明する。 ○ 昨年度の活動を想起させる。 ○ 写真や映像を用意し、必要に応じて見せる。

(2) 本時の活動(第1時)

- ① 活動テーマ例 「6年生にありがとうの気持ちを伝えよう」

- ② 活動のねらい 6年生を楽しませ、また安心させる「6年生を送る会」にするにはどんな活動をしたらよいかを話し合おう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 司会の児童を中心に議題の確認や話し合い活動のねらいについて話を聞く。	○ 6年生を送る会について写真や映像で説明する。 ○ 話し合い活動の目的や本時のめあてを確認させ、話し合いの助言者として、方向性を示す。
展開	2 6年生を送る会について考えてきた意見を出し合う。 3 出てきた意見をもとに、比べ合う。 4 比べ合ったことをもとに、意見をまとめる。	○ 考えてきた意見やノートに書いてきたものを発表できていない児童がいれば、発表するよう促す。 ○ 実施可能な内容か、また準備物を作成するまでにどのくらい期間が必要か考えながら話し合いを進め、実施不可能であれば代案を示す。 ◇ 6年生にとって楽しく、安心して卒業できると思える会にするには、どんな活動をしたらよいかを考えて、話し合い活動に参加することができたか。
終末	5 本時の活動をふり返り、教師の話を聞く。	◇ 話し合いのめあてを達成することができたか。

(3) 事後の活動(第2時に向けた事前の活動)

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
<ul style="list-style-type: none">代表委員会に出席し、各学級から持ち寄った意見について話し合う。(代表委員会)代表委員会の話し合い活動で決まったことを聞く。(休み時間、ふれあいタイム)	<ul style="list-style-type: none">○ 6年生を送る会の目的・意義を出席者全員が理解できるよう助言する。◇ 6年生に感謝の気持ちを伝えるための話し合い活動を行うことができたか。○ 活動内容の詳細について、代表委員会の児童が説明不足である部分について補足・説明する。

(4) 本時の活動(第2時)

① 活動テーマ例 「6年生にありがとうの気持ちを伝えよう」

② 活動のねらい 6年生に感謝の気持ちを伝えけるとともに、会全体がスムーズに進行するよう準備をしよう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 (代表委員)会の準備について説明をする。 2 代表委員会の児童からの説明を聞く。 3 教師の説明を聞く。	○ 活動の目的や本時のめあてを再確認させ、注意事項を説明する。
展開	4 準備をする。(活動例) <ul style="list-style-type: none">出し物をする歌を歌うプレゼントを贈る	<ul style="list-style-type: none">○ 活動の工夫が見られた児童を取り上げ、称賛する。○ 準備の中で新たに必要になったことや改善する点は、最後に全体で確認、説明する。◇ 計画に従って、感謝の気持ちを伝えたり会全体をスムーズに進行したりする準備になったか。
終末	5 本時の活動をふり返り、教師の話聞く。	○ 6年生に対するどんな思いからこの活動をするのかをふり返り、意識付けを図る話をする。

(5) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
<ul style="list-style-type: none">計画に基づいて準備をしたり練習をしたりする。(休み時間・ふれあいタイム)6年生を送る会を実施する。	<ul style="list-style-type: none">○ 協力している姿や、真剣に取り組んでいる姿を称賛する。◇ 計画に従って、6年生に感謝の気持ちを伝えたり楽しんでもらったりすることができたか。また、会全体がスムーズに進行したか。

1 題材名 感謝の集い【内容(1)】

指導の時期 2月

2 題材について

スクールガードリーダー、見守り隊、交通指導員の方々は、常に児童の安全な生活のために力を貸して下さっている。しかし、児童は登下校時にあいさつはするが、感謝を直接伝える機会というのではない。また、地域の方やボランティアの方がこういった活動をしているかということとはほとんど知らない。

そこで、そうした方々に対して感謝の気持ちを表すための方法を考え、話し合い活動を行うことで、地域の方やボランティアの方の取り組みを知り、感謝の気持ちを直接伝える活動を行う。話し合いで決まったことは、代表委員会に提案され、会の進行によっては、「感謝の集い」で実際に行われることになる。学級ごとの話し合いで、実際に実行できる内容を建設的・能率的に話し合わせ、学級として1つの意見に集約する話し合い活動になることが考えられる。話し合いに折り合いをつけさせながら、「感謝の会」にふさわしい活動となるよう配慮する。

3 題材の目標

- 感謝の会について進んで話し合い活動に参加するとともに、地域の方やボランティアの方に感謝の気持ちを伝えようとしている。(関・意・態)
- 感謝の会のために、様々なアイデアや活動の工夫について意見を発表することができる。(思・判・実)
- 地域の方やボランティアの方に対するどんな思いからこの活動をするのかを話し合い気持ちが伝わるような活動を行うことが大切であることが分かる。(知・理)

4 他教科・他領域や日常指導などとの関連 ◎人権教育 ◆道徳教育 ★その他

- ◎ 自分たちの思いを伝えられるような活動を考え、発表することができる。(技能)
- ◆ お世話になっている地域の方やボランティアの方への感謝の気持ちを表す会をする活動を通して、感謝の心を育てる。(2-(5) 尊敬・感謝)

5 題材の展開

(1) 事前の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)
・ 感謝の会について教師の話聞く。 (朝の会・帰りの会)	○ 感謝の会について説明する。

(2) 本時の活動(第1時)

- ① 活動テーマ例 「お世話になった人へ感謝の気持ちを伝えよう」
- ② 活動のねらい お世話になっている地域の方やボランティアの方への感謝の気持ちを表すにはどんな活動をしたらいいか考えよう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 司会の教師を中心に議題の確認や話し合い活動のねらいについて話を聞く。	○ 話し合い活動の目的や本時のめあてを確認させ、話し合いの司会者として、方向性を示す。
展開	2 感謝の会について考えてきた意見を出し合う。 3 出てきた意見をもとに、比べ合う。 4 比べ合ったことをもとに、意見をまとめる。	○ 考えてきた意見やノートに書いてきたものを発表できていない児童がいれば、発表するよう促す。 ○ 実施可能な内容か、また準備物を作成するまでにどのくらい期間が必要か考えながら話し合いを進め、実施不可能であれば代案を示す。 ◇ 地域の方やボランティアの方に感謝の気持ちを伝えるには、どんな活動をしたらいいかを考えて、話し合い活動に参加することができたか。
終末	5 本時の活動をふり返り、教師の話聞く。	◇ 話し合いのめあてを達成することができたか。

(3) 事後の活動(第2時に向けた事前の活動)

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 代表委員会の話し合い活動で決まったことを聞く。 (休み時間、ふれあいタイム)	○ 活動内容の詳細について決め、説明する。

(4) 本時の活動(第2時)

① 活動テーマ例 「お世話になった人へ感謝の気持ちを伝えよう」

② 活動のねらい 感謝の会を開くための準備をしよう。

	児童の活動内容	教師の支援(○)・評価(◇)
開始	1 代表委員会の児童からの説明を確認する。 2 教師の説明を聞く。	○ 活動の目的や本時のめあてを再確認させ、注意事項を説明する。
展開	3 準備をする。 (活動例) ・手紙を書く ・花束を渡す ・歌を歌う ・プレゼントを贈る	○ 活動の工夫が見られた児童を取り上げ、称賛する。 ○ 準備の中で新たに必要になったことや改善する点は、最後に全体で確認、説明する。 ◇ 計画に従って、感謝の気持ちを伝えたり楽しんでももらえたりする準備になったか。
終末	4 本時の活動をふり返り、教師の話聞く。	○ 地域の方やボランティアの方に対するどんな思いからこの活動をするのかをふり返り、意識付けを図る話をする。

(5) 事後の活動

児童の活動内容(活動の場)	教師の支援(○)・評価(◇)
・ 計画に基づいて準備をしたり練習をしたりする。 (休み時間・ふれあいタイム) ・ 感謝の会を実施する。	○ 協力している姿や、真剣に取り組んでいる姿を称賛する。 ◇ 計画に従って、地域の方やボランティアの方に感謝の気持ちを伝えたり楽しんでもらったりすることができたか。